発行：初黄・日ノ出町環境浄化推進協議会

黄金町まちづくりニュース

vol.135 2022年12月号

日ノ出町お祭り広場オープン！

／はつこひ市場も同時開催！＼

9月18日（日）に日ノ出町お祭り広場のお披露目とはつこひ市場が開催されました。
当日はあいにくの天気にもかかわらず、多くの人で賑わいました。

大岡川沿いの初黄・日ノ出町地区に新たな広場が出来ました。

そこにはかつて「らいむらいと」という建物があり、映画やドラマのロケでお馴染みの場所でした。しかし、そこが空き家となり数年が経つと建物の老朽化が進み、倒壊の危険性などの安全面や、落書き問題など治安の面でも街にとって大きな問題となっていました。

様々な課題が多々ありましたが、行政と打ち合わせを重ね、この地域の安全、安心な賑わいのある街づくりの一環として広場利用が出来るようになりました。

「日ノ出町お祭り広場」という名前には、子供たちが明るく元気に、生まれ育った町の思い出をたくさん作ってほしいという思いが込められています。そして彼らにとって新たなお馴染みの場所になってほしいと思います。

日ノ出町お祭り広場

はつこひ市場

9月18日（日）に、初黄日商店会が主催するローカルマルシェ、「はつこひ市場」が１年ぶりに開催されました。悪天候の中、予想以上のたくさんの方にご来場いただき、高架下の各会場が賑わう1日になりました。今回は横浜中央卸売市場から届いたマグロの販売や、初のキッチンカーも登場し、だがしやさんの企画など、子ども向けの取り組みも行いました。商店会のお店の商品などが当たるスランプラリーも実施され、３つの会場を巡りながら、エリアを楽しんでいただけたかと思います。当日は、のきさきアートフェア、日ノ出町お祭り広場式典も同時開催され、様々な世代の方にご来場いただきました。今回も、横浜市立大学鈴木ゼミの学生の皆さんに、運営の協力をいただきました。秋の開催の後は、桜の季節、３月頃の開催を予定しています。お楽しみに！

絵：竹本真紀・たけもとまき
1999年国立弘前大学教育学部卒業。2001年美学校小沢剛トンチキアートスクール卒業。2001年ターナーアクリルアワード2000入選。2005年アートコンペLiveグランプリ受賞。2011年～2017年黄金町AIR参加。個展、グループ展、プロジェクト等多数。町の中にオリジナルキャラクターを出没させて探し回ってもらいながら町を観察してもらう「〇〇ちゃんを探せ！」が代表作。

黄金町 Koganecho Pick Up ピックアップ

黄金町エリアの最近の出来事や今後のイベント情報をお知らせします！

地域のイベント

毎月27日　防犯パトロール（15時黄金町交番集合）　※12月は17日（土）
防犯・防災の視点で、地域の危険地域を地図に落とし込んでいきます。
1/8（日）　餅つき（日ノ出町青年会）
1/29（日）　餅つき（赤英町内会）
2月　節分祭
その他　大岡川春の花準備

お願い
11月に配布しました「まちづくり地区計画アンケート」へのご回答をお願いいたします。皆様の貴重なご意見を求めています。

アートイベント

A Small, Good Thing－積み重ねることで生まれること－
黄金町のアーティストによる展覧会（キュレーション：小川希［Art Center Ongoing］）
会期‖11/25（金）～12/11（日）　月休
時間‖13:30～19:00
会場‖高架下スタジオSite-Aギャラリー

Xmasサステナブルアート＠京急百貨店
黄金町のアーティストが京急百貨店でサステナブルなアートを展示します。
会期‖12/1（木）～25（日）
時間‖10:00～20:00 ※施設の営業時間に準じる
会場‖京急百貨店3階正面入口横ショーウインドウ

ヨルノヨ　黄金町灯明ウォッチング
京浜急行高架下の広場「ロックカク」に、色とりどりの灯明による幻想的な景色が現れます。
日程‖12/9（金）　時間‖16:30～21:00

草枕プロジェクト展
昨年実施した「横浜あの街を歩く」展を振り返ります。
会期‖12/16（金）～25（日）　月休
会場‖高架下スタジオSite-Aギャラリー

福岡のアーティスト展
福岡のアーティストを若手とベテランの2期に分けて紹介します。
会期‖1/13（金）～2/5（日）、2/10（金）～3/5（日）
会場‖高架下スタジオSite-Aギャラリー

ぷらり　あんな店こんな店

～株式会社佐野屋本店に聞きました

Q1 株式会社佐野屋本店はずっと日ノ出町に？
戦前は長者町で、進駐軍に接収され日ノ出町にきた。

Q2 子どものころの様子は？
幼稚園のころ、酔っ払いの浮浪者がうろついたり脅されたことも。

Q3 目玉商品は？
ネット販売が乱立する中、玩具や花火の知識は豊富。良い相談相手になれます。

訃報　初黄・日ノ出町環境浄化推進協議会副会長、NPO法人黄金町エリアマネジメントセンター理事長の竹内一夫氏のご尊父竹内寅栄様が、7月27日ご逝去されました（享年97歳）。心より哀悼の意を表します。

黄金町エリアマップ

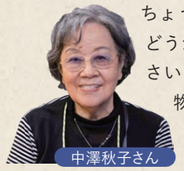
黄金町まちづくりニュース vol.135　発行・お問合せ：初黄・日ノ出町環境浄化推進協議会、特定非営利活動法人黄金町エリアマネジメントセンター
〒231-0054横浜市中区黄金町1-4先 高架下スタジオSite-B　TEL 045-261-5467　E-MAIL info@koganecho.net　WEB https://koganecho.net/　デザイン：大村政之（クルール）

古老に聞く

～昭和10年代の日ノ出町・初音町・黄金町～

戦前のまちの様子や思い出を、当時からお住いの皆さんに、語っていただきました。

語り手：中澤秋子さん（昭和10年生まれ）、長門石里子さん（昭和13年生まれ）、角田陽之介さん（昭和5年生まれ）、角田静子さん（昭和6年生まれ）、一ノ瀬成和さん（昭和18年生まれ）
聞き手：広報イベント部会　秋成、浅野、佐野


中澤秋子さん

中澤（以下 中）◆その頃この辺りは、こども3～4人が普通だった。ちょうど戦争に向かっていくときで、集団疎開に行くかどうかの話も始まった。私が今いうとおかしいけど、小さいころ体が弱かったので集団疎開に行かれなかった。物がなくなっていき、学校で抽選会をして物を買っていた。父は出征のときに、そろばんが得意だから簿記できますって言って千葉で内務になった。

長門石里子さん

長門石（以下 長）◆東小学校に入学するとき、お父ちゃんとお母ちゃんが揃って来てくれたのに、ニッキをなめていたのがバレてひどく叱られた記憶がある。何やってんだ、ってみんなの前で。そんなお父ちゃんが出征していった。小学6年生を頭に5人の子ども達を残して行っちゃった。先日、偶然納戸で戸籍謄本を見つけたの。セブ島で亡くなったと書いてあった。弟妹は、お父ちゃんの話は聞きたくないって、よく言ってた。

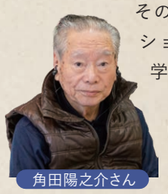
長◆この辺りには、いろんな店がそろってたね。洋品屋、八百屋、酒屋、風呂屋、魚屋、ほかにも病院や医院、鉄鋼所や材木屋なんかもあって、生活が全部賄えちゃう。なにも困らなかった。市場なんかもあって赤門や東福寺を行きかう人が多かった。子神社の敷地は、今の駐車場のところまであった、なぜかそこに教会があった。川沿いには魚屋さん、米屋さん、箱屋さんもあって、写真館もあったわね。ドラム缶作ってるとこもあったね。写真屋さんといえば、私のお母ちゃんの結婚式の写真が飾ってあった。文金高島田の。

角田静子さん

中◆電気屋さんも、看板屋さんもあったね。昔湧水は、初音町側にあったのよ、今は日ノ出町側だけどね。水の流れがどうなったのかはわからないけど、その水売ったり、お風呂に使ったりしてたね。大岡川だって汚かったわよね。メタンガスが発生して。落っこちたら大変だった。今はきれいになった。

野毛町付近を走る市電（昭和5年頃／横浜開港資料館所蔵）

角田（以下 角）◆僕も昔は末吉町にいたけど、最初のころは商店も多く、船なんかで仕事してる人もいた。


角田陽之介さん

その頃は、今の東小学校の坂下の三角地帯（現マンション地）の狭い道がメイン通りだった。それが、学校を作るっていうので坂下の道を広げたからそれがメイン通りのようになってしまった。だから、三角地帯はいまでも日ノ出町ですよ。

中◆お風呂屋さんといえば、鉄温泉。鉄温泉には池があって、この辺りが焼けたときは池に飛び込んだ。昔は船で仕事をしてた人も多かった。戦争の焼け跡に残った煙突も覚えてる。霞ヶ丘の方は、牧草地みたいになっていたね。

一ノ瀬成和さん

一ノ瀬（以下 一）◆断片的になるけど、俺なんか幼稚園いかずに小学校いったね。当時は本町小学校。小さい頃は逗子にいて、そのあとここで親が乾物屋をした。

秋成（以下 秋）◆私はもともと末吉町だった、あの頃はどこもお祭りが盛んで、ふんどしで神輿を担いでたね。

角◆何町内も一緒になってやってたからね。神輿も何十機と出たね。日ノ出町のこの通り（現平戸桜木通）も、問屋街でにぎわっていましたね。

一◆子どものころ、市電が走っててね、うちの親なんか夜中の12時すぎまで車運転して働いてたけど、市電にぶつかったりしたことがあった。東京オリンピック前後まであったね。よく三渓園まで市電で行ってた。遠浅だから自分で銛作ってカニを取ったりしてた。いつのまにか市電もなくなったけど、あった方がいいななんて話もあった。

佐野◆ステンドグラスみたいな模様のある公衆トイレは、昔の市電の停留所の名残だときいたことがある。

秋◆私が小さいころは末吉町にいたけど、阪東橋の市場が賑わっていた。火事になって、ショッピングセンターができて、その上が公団住宅になった。

一：今とは様子が違うけど、いろんな商店があり、問屋があって賑わってたね。

横浜市立東小学校創立100周年記念誌「あずま」から

東小学校の下に広がる赤門商店街は、戦前、赤門東福寺の門前町として賑わっていました。明治4～5年（1871～1872）頃から赤門東福寺は縁日を行い見世物小屋・露店・草芝居などが出ました。（中略）英町の近くには、駄菓子・やきいも屋・こまもの屋があり、初音町から日ノ出町にかけては、病院・郵便局・銀行・看護婦会などが連なり、とても賑わっていました。当時の交通手段は船で、大岡川沿いには問屋が数多くありました。

黄金町国際AIRプログラム 2022 成果展

『交流再来』

「黄金町国際AIRプログラム2022」では、今年の夏、5つの都市からアーティストを招聘し、作品制作・調査を実施いたしました。その成果展となる『交流再来』は、10月1日から10月16日の期間、高架下スタジオSite-Aギャラリー、八番館、山本アパートの3カ所を会場として開催されました。作家たちは黄金町での滞在から得た体験やインスピレーション、さらには、それぞれが生きる現状を背景にしながら、観るものの想像力を掻き立てる作品の数々を発表してくれました。ここでは、プログラムに参加した作家及び、本展で発表された各作家たちの作品を紹介いたします。

李杰恩（リ・ジェイエン）
Lee Jay En

リ・ジェイエンは、台湾の高雄に住み、個人としての作家活動の他に、複数のアートグループを主宰するなど精力的に活動を展開するアーティストです。国や人が複数存在することで生じるさまざまな境界について関心を寄せているリは、今回の滞在中に感じたパンデミックの影響について、さまざまな素材を用いて作品化しました。「Made in China」と書かれたマスク。それが表すのはマスクの製造国についてなのか、あるいは全世界を覆ったウイルスについてなのか。全ては蝋で覆われて、その真意はぼやけて見えます。また、人と人の接触を遮断するための素材となったビニールシートに、作家が滞在中に出会った人々に母国語で国歌を歌ってもらった映像を投影した作品では、薄っぺらい境界の上に、確固として存在する国という概念をぼんやりと浮かべ上らせることに成功していました。

上『Made in China　中国製』2022　マスク、ワックス
下『National anthem　国歌』2022　ビデオ、透明ビニールシート

ミンジュン・チャン
Minjun Jeon

韓国の光州出身のミンジュン・チャンは、しなやかさと強さ、そして熱さや冷たさという、相反する性質をあわせ持つ鉄を素材とした作品を手掛けるアーティストです。現代社会が持つ二面性をテーマに、情熱、無関心、アンビバレンス、現代生活の矛盾、そして自分自身に関心を持ち制作を続けてきました。今回は「理想の世界」をテーマに、主にダンボールを素材とし、空中都市としてデザインされたシャンデリアを制作。また会場の壁には段ボールを切り抜いた韓国語が無数に貼られており、下部には現状を嘆くようなネガティブな言葉が並んでいるのに対し、上部に移行するにつれそれらはポジティブな言葉へと変わっていき、理想の世界へ近づくための作家自身の宣言のようにも感じられました。

上『Chandelier　シャンデリア』2022　ミクストメディア
下『Emotional words　エモーショナル・ワード』2022　ミクストメディア

コム&ポイ
Kom & Poy

コム&ポイは、チェンライを拠点に活動するアーティストのアティコム・ムクダプラコーン（コム）とポジャワン・パンジンダ（ポイ）によるアーティストユニット。共に現代社会が持つ様々な問題に言及しながら多様な活動を展開しています。今回はパンデミックを嵐に見立て、タイ政府によるコロナウイルスの感染拡大防止を口実にした言論統制の状況をインスタレーション空間として発表。お土産品の定番であるスノードームを模して作られた作品にはタイの街並みが閉じ込められ、手にとって持ち上げれば、パンデミックの嵐の真っ只中のようにその内側は真っ白く見えなくなります。また部屋の窓枠にはコム&ポイによる装置が仕込まれており、定期的に風が部屋の内側に送り込まれ、嵐の中に閉じ込められたかのような錯覚を与えていました。

上『Mekong Garden メコン・ガーデン』2022　PLAフィギュア、スノードーム
下『Vindauga 窓牖（まど）』2022　風を送る装置

刘利斌（リウ・リビン）
Liu Libin

リウ・リビンは中国の四川省の成都で活動を続けるアーティストです。ギャラリー空間だけでなく街中や路上でもパフォーマンスを行い、それらをビデオ作品として発表しています。今回展示された『誰かに打ち明ける』には、音声はありません。観るものは、映像の男の、口の動き、涙、笑顔の表情からどのような話をしているのかを推測することしかできません。ただ、そのタイトルと映像から、何か重要なことをこちらに対して一心不乱に語りかけている、そのことだけは窺えます。彼が涙を流してまで訴えかけようとしていることは一体なんであったのでしょうか。観るものの心に残ります。

『誰かに打ち明ける』2021　Video

ジェイゼル・クリスティーン
Jazel Kristin

ジェイゼル・クリスティーンは、フィリピンのマニラを拠点とするアーティストです。これまで、写真、ビデオ、サウンド、パフォーマンスなどを手がけてきました。ジェイゼルは制作において、「食」と「消費」というテーマを繰り返し掲げます。今回も、日本に滞在中に自ら撮影した食事の写真を利用した作品を制作、そのモチーフとなったのは「ヤスデ」です。日本ではその外見から忌み嫌われるヤスデですが、一部の文化では幸運、エネルギー、癒しの象徴として知られています。偶然にも、彼女は今回の滞在のためマニラを出発する前、また黄金町の線路沿いのアパートに到着したとき、ヤスデと遭遇しました。その出会いを振り返りながら、フォトコラージュ作品として完成させました。

『COME WITH ME/MI (Ilipedes) ヤスデとともに』2022
フォトコラージュ、木材